



## 思春期健康教育出前講座 ～4年生が受講しました～



# 前途洋々

熊本県看護協会から派遣された講師の方が、小中学生向けにお話をしてください事業があり、今回本校の4年生が本事業を活用しました。テーマは「みんなで話そう一命の大切さ・こころと体の話」というものです。1月13日（火）の3時間目、協会から、熊本保健科学大学の原田先生においでいただきました。思春期の体と心の変化、第二次性徴には個人差があることなど、様々なことを教えていただきました。また、子供たちは赤ちゃん人形を実際に抱っこして「命の重さ」を感じていました。子供たち一人ひとりが大切でかけがえのない存在。そのことも、これから学習で感じてほしいと思います。（写真左：人形を抱っこする子供たち、右：講師の原田先生）



## 尾崎スクールカウンセラーから「きょうかい線」について学ぶ

定期的に本校に来てくださっている宇城教育事務所所属の尾崎スクールカウンセラー。個別の相談はもちろんのこと、授業の中で、子供たちに対人関係に係るストレスマネジメントやSOSの出し方についてお話をしてくださいます。今回は1月13日（火）の5時間目に、4・5・6年生が授業を受けました。今回のテーマは、「だいじにすること だいじにされること ～きょうかい線をまもること」。私たちが、安心感や安全だという感覚を得るには、「きょうかい線」が必要だというお話です。その「きょうかい線」には、「① からだのきょうかい線」「② 気もちのきょうかい線」「③ 時間のきょうかい線」「④ 持ち物のきょうかい線」「⑤ 責任のきょうかい線」の5つがあるとのこと。この「きょうかい線」を明確に持つことの必要性から、「相手から傷つけられない、相手と同じ気持である必要はない、無理して相手に付き合う必要はない、相手に勝手に自分の物に触られない、人の責任を自分がかぶる必要はない」という、安心・安全な心のありようについて具体的にお話ししていただきました。もちろんこれらのこととは、人に対してもやってはいけないことです。「きょうかい線」を破るということは、傷つくことを言われたり、相手に無理矢理付き合わされたりすることを意味します。そこで、互いに尊重し合うために、

- 相手の考え方や気持を聞くこと。
- 自分の気持ちや考え方を相手に押しつけない。
- 相手の体に勝手にさわらない。
- 人の持ち物に勝手にさわらない。
- 相手の都合を聞く。

など、具体的なアドバイスがされました。子供たちも日々悩みが多いと思うのですが、この視点にたって考えると、もっと上手に人と付き合っていくのではないでしょうか。また、上記のこととは、人間関係の様々なことに応用できそうだと感じます。

講師の尾崎スクールカウンセラー

先生の様々な質問に、自分の考えを発表していく子供たち